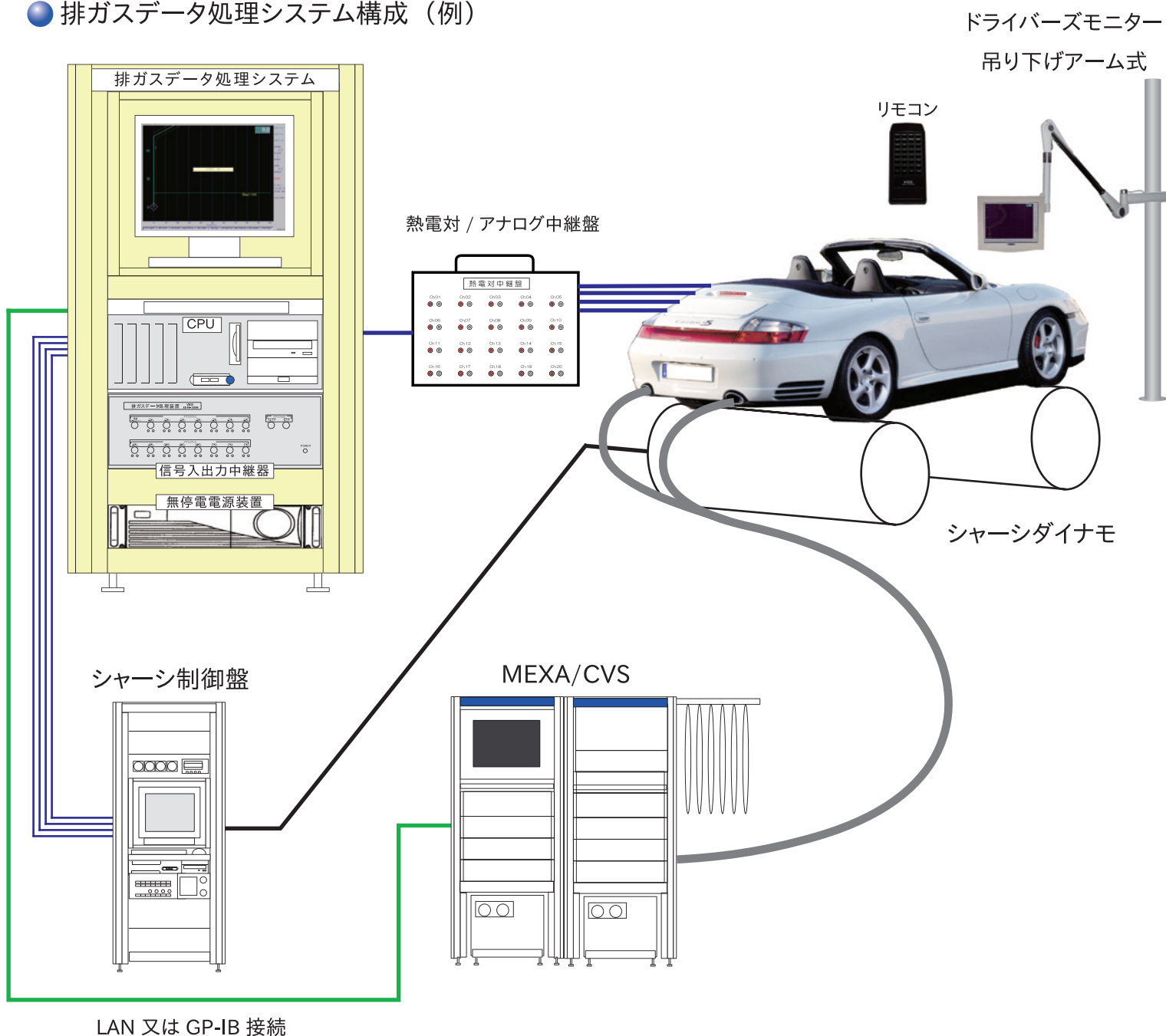
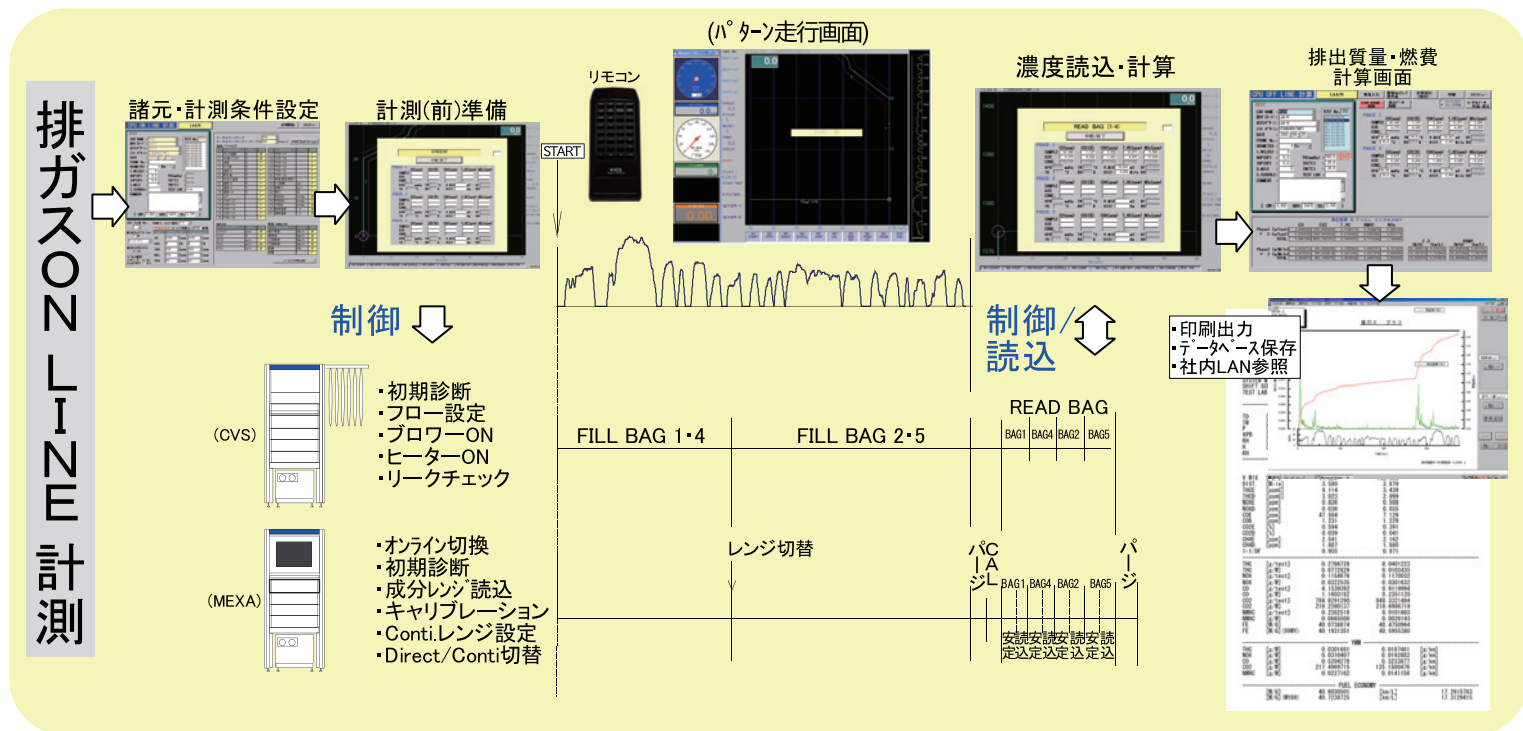


排ガスデータ処理システム

排気ガス試験時における、全ての周辺計測設備（CVS, MEXA 等）の制御を行い、データのインポート（LAN, GPIB 通信）、排出重量計算及び印刷までを自動で行います。

● 排ガスデータ処理システム構成（例）





● 特長

■ 分析計、採取装置への各種操作を自動化

バッグ収集、LEAK CHECK操作、キャリブレーション、各成分の濃度測定及び適正レンジ切替、バッグ保護作業が自動的に行われます。

■ CONTI・バッグ濃度計測時の分析計各成分濃度のデータ読込を自動化

他のデータロガー等を併用せず、排ガス処理のデータを一本化できます。

■ 各成分の排出重量計算・燃費計算も自動化

各成分比重・燃料比重を各モードごとに設定し自動演算します。

■ 各国の走行モード、バッグ操作及び計算をカバー

(LA4-CH, EUDC, JC08, WLTP, 任意モードなど)

■ 計測結果をデータベース化して保存

機種・モード別のデータ参照抽出、傾向の比較が容易に行えます。また、ネットワークを経由して他のクライアントからのデータ参照が可能です。

■ 各種データのモーダルサンプリング・グラフ表示

THC・NO_x・CO・CO₂ 以外にE/G・Pb・油温・水温等(最大32Ch)も同時に自動で取り込み、排出濃度・排出重量の解析が行えます。

■ 低温試験室・高温試験室でも対応可能

低温室(-35℃)、高温室(60℃)に対応したシャーシ室モニターも用意しております。